

令和3年7月1日14時00分
資料配布 近畿地方整備局

猪名川の水質改善幅が4年連続で全国第1位 ～令和2年近畿地方一級河川の水質現況を公表～

- 国土交通省では毎年7月の河川愛護月間に、一級河川の水質調査結果を公表しております。
- 過去10年間で水質が最も改善した河川は、淀川水系猪名川(大阪府豊中市利倉地点)で、水質改善幅は4年連続で全国第1位を記録しました。
(BOD平均値 平成22年:8.1mg/ℓ→令和2年:3.0mg/ℓ 改善幅5.1mg/ℓ)
- 令和2年の水質が最も良好な河川(全調査地点がBOD下限値)は、近畿では新宮川水系熊野川、BOD下限値の調査地点がある河川は淀川水系桂川、揖保川、円山川、北川となりました。

令和2年に実施した水質調査結果に基づき、近畿地方一級河川の水質現況を公表します。主な水質現況は以下のとおりです。

○過去10年間で水質が大きく改善した河川(地点)

猪名川(大阪府豊中市利倉地点) :改善幅 5.1mg/ℓ → 全国第1位
山科川(京都府京都市伏見区中野橋地点) :改善幅 2.2mg/ℓ → 全国第4位

○BOD下限値*1の調査地点がある河川

熊野川(和歌山県新宮市熊野大橋地点など) → 全国「水質が最も良好な河川」*2
桂川(京都府京都市渡月橋地点など)、揖保川(兵庫県宍粟市曲里地点)
円山川(京都府豊岡市府市場地点)、北川(福井県小浜市西津橋地点)

*1 環境省の定めるBODの報告下限値(0.5mg/ℓ)

*2 国土交通省が実施している水質調査のうち、以下の両方の条件を満たす河川

- 各調査地点のBOD年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/ℓ
- 各調査地点のBOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/ℓ

○環境基準(主にBOD)の満足状況

調査地点のうち、約9割の地点で環境基準を満足し、ここ5年間ほぼ横ばいです。

(川や水に関する、特集ページを設けたパンフレットを近畿地方整備局河川部のホームページからご覧下さい。http://www.kkr.mlitt.go.jp/river/kankyuu/suisitu.html)

<取扱い>

<配布場所>近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、堺市政記者クラブ、在堺記者クラブ、滋賀県政記者クラブ、福知山市政記者クラブ、舞鶴市政記者クラブ、綾部新聞記者クラブ、京都府政記者クラブ、宇治日刊記者クラブ、宮津市政記者クラブ、兵庫県政記者クラブ、姫路市政記者クラブ、但馬県民局県政記者クラブ、豊岡市政記者クラブ、奈良県政・経済記者クラブ、五條市政記者クラブ、和歌山県政記者クラブ、和歌山県地方新聞記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ、橋本市政記者クラブ、新宮記者クラブ、新宮中央記者会、福井県政記者クラブ、大野市政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、名張市政記者クラブ、伊賀記者会、熊野市記者クラブ

<問合せ先>近畿地方整備局 河川部 河川環境課 課長 藤井 節生
TEL 06-6942-0608(直通)

水質現況(令和2年 BOD結果 概要)

近畿地方整備局



<配付資料>



近畿管内BOD 代表河川地点

河川名	BOD下限値*の地点
熊野川	熊野大橋、熊野川河口
桂川	渡月橋、久世橋
揖保川	曲里
円山川	府市場
北川	西津橋

近畿管内BOD改善幅 代表河川地点一覧

項目	順位	河川名/地点名	BOD(mg/l)
改善幅	1	猪名川/利倉	5.1 (8.1 → 3.0)
	2	山科川/中野橋	2.2 (4.5 → 2.3)

()内は平成22年→令和2年結果

* 環境省の定めるBOD報告下限値 (0.5mg/l)

熊野川は全国の水質が最も良好な河川
(18河川)にも選定

「近畿1位」の利倉は全国1位
「近畿2位」の中野橋は全国4位

配布資料

令和2年近畿管内一級河川の水質現況の公表について（概要）

令和2年の近畿管内一級河川で、過去10年間で最も水質が改善した河川は淀川水系猪名川の利倉地点（大阪府豊中市）で改善幅は全国一位を記録しました。

環境省の定めるBOD報告下限値となった調査地点のある河川は、新宮川水系熊野川、淀川水系桂川、揖保川、円山川、北川となりました。また、熊野川は、全国で「水質が最も良好な河川」の18河川に選ばれました。

1. 令和2年水質調査結果について

<主要河川の地点別年平均水質>（パンフレットP5）

○調査地点別のBOD年平均値で見ると、熊野大橋・熊野川河口（熊野川）、渡月橋・久世橋（桂川）、曲里（揖保川）、府市場（円山川）、西津橋（北川）の7地点（5河川）においてBOD下限値^{※1}となり、新宮川水系熊野川は、水質が最も良好な河川^{※2}（全国で18河川）となった。

※1 環境省の定めるBOD報告下限値(0.5mg/ℓ)

※2 国土交通省が実施している水質調査のうち、以下の両方の条件を満たす河川。

- ・各調査地点のBOD年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/ℓ
- ・各調査地点のBOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/ℓ

<過去10年間の水質改善状況>（パンフレットP6）

○下水道の普及や水質改善の取り組みにより、利倉（猪名川）、中野橋（山科川）では、過去10年間でBOD値が大幅に改善されている。

<生活環境の保全に関する環境基準の満足状況>（パンフレットP6）

○令和2年は、近畿地方一級河川（湖沼を含む）で環境基準のうち主要な指標であるBOD（またはCOD）の基準を満足している地点の割合は、91%の104地点となった。（環境基準の類型が指定されている114調査地点（1地点欠測除く）での調査結果）

- 河川類型指定102地点(1地点欠測除く)全てで環境基準を満足。
- 湖沼類型指定12地点中、環境基準を満足している地点は2地点。

2. 令和2年度ダイオキシン類の実態調査結果について

<ダイオキシン類の実態調査結果>（パンフレットP7）

○令和2年度に実施したダイオキシン類の実態調査では、すべての地点において水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足していた。

3. 令和2年感覚的な水質指標による調査結果について

＜感覚的な水質指標に基づく調査結果＞（パンフレットP9、10）

○「感覚的な水質指標」に基づく調査は、従来の有機性汚濁の指標であるBODだけでなく多様な視点で評価するため、「人と河川の豊かなふれあいの確保」、「豊かな生態系の確保」、「利用しやすい水質の確保」という3つの視点別に住民との協働による調査を実施しています。

- 『人と河川の豊かなふれあいの確保（4段階）』の視点においては、
B「川の中に入って遊びやすい」の地点が多かった。

- 『豊かな生態系の確保（4段階）』の視点においては、
A「生物の生息・成育・繁殖環境として非常に良好」の地点が多かった。

- 『利用しやすい水質の確保（3段階）』の視点においては、
A「より利用しやすい」の地点が多かった。

4. 水質事故等の発生状況について

＜水質事故等の発生状況＞（パンフレットP13）

○令和2年に近畿地方整備局管内で発生した水質事故は53件で令和元年の73件より大幅に減少した。水系別では淀川水系の発生件数が21件で最多となり、事故の種類別では油類によるものが多く、原因別では交通事故や工場等での操作ミスによるものが多かった。

近畿版の公表資料については、下記を参照してください。
（近畿地方整備局 河川部HPに掲載）

<http://www.kkr.mlit.go.jp/river/kankyousuisitu.html>

全国版については、国土交通省 本省HPを参照してください。

https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/index.html